

氏の叙述にして「貿易」より轉動したるもの也

北老爺嶺_{山脈}大森林
及雪中縱斷記

海中信號の發明

に於て遜色なき者からす信用ある商人の漸次増加し行く事實あり政府は其商業學に於て盛に商人に正直なるべき必要を説き此方面に向て全力を注ぎ居り彼の小點策は舊時の因襲に基ける夢と化し去りつゝありされば日本人の商業意識を云ふするは既に今は殆ど價値なきの議論にして目下於て最も重大視せらるゝは日本人生活費の増加及び勞働の購買する事是也。最近の計算に分かる打通し歩き計めで、一寸間に三道路程早の相屋で休んだばかり、夫が夜役の十時十五分始めて三笠子の村端に着いたのを水中に漂着する音響を利用する目的を以て

近年海軍各艦に關係する各種の進歩發明射たれたる觀あり軍艦の構造及び其主武器等の原動力たる蒸發側面を顧れば水管式汽機を現出したる以來今や燃料として重油が石炭の根據を占領せんとするあり機關にはタービンが脱兎の勢を以て進み直動機械を排壓せんとするの概あり其他潛航艇無線電

近海軍各艦に關係する各種の進歩發明射たれたる觀あり軍艦の構造及び其主武器等の原動力たる蒸發側面を顧れば水管式汽機を現出したる以來今や燃料として重油が石炭の根據を占領せんとするあり機關にはタービンが脱兎の勢を以て進み直動機械を排壓せんとするの概あり其他潛航艇無線電

間島より 知白生

初して世界經濟に多大なる利益を與ふべきものならず。殊に海軍に在ては、平時戰時と問はず總額の便宜安全を確保するの外に戰時は港灣防禦法に應用し、莫大の便宜あると共に潛航艇の如き全然海面下を航行して周圍の狀況を展望料知するに僅に短小なる潜望鏡にのみ頼るが如き船艇の行動上には非常な便利を與ふべきが故になか／＼如く探せらるべき問題なりとす。蓋し従前の如く探海燈照映の唯一方法に依り敵の水雷裝甲艦を発見するの外に戰艦内の適當の處及び要害の海岸哨所に配置したる番兵は海中偵察機轉の應用に依り容易に敵艦遂敵水雷艇の接近を察知し警戒を加へ得ればなり。頃日外國に於て行はれる實驗なりとて傳ふる所に依れば、鐵條縱溝中其二重底に特設せられたる鑛に配置したる當番兵は極底を成せる距離を通じても、水雷艇が遙に探照燈の光達する音響を聴收し得且つ此の探照燈の利用する音響を聴收し得且つ已に其の音響を利用

資本金壹萬圓株式會社にて内海なる地點に設置すべく漁獲せらるる魚類は廣州方面又は釜山若しくは日本内地運搬販賣するものにて此程釜山理事廳より認可せられたれば目下設備中なりと

間島より

知自生

過日来青紙上に御揭載ある天寶山事業に關する事柄左に略報仕候
抑も天寶山銀礦は往年中和公司（中野氏主と）間島鐵務局總辦程光第との間に於て彼我公然の手續を了し中和公司財東となり開掘に着手したる場所にして間島唯一の財源なり。彼れ清國中央政府今日利權回收熱尤も盛んなるの時督辦陳昭常督辦（我土官學士校出の年壯者）吳祿貞の赴任後彼等は中央政府の意志に膺ひ之れが鞏固なる手段に出でざれば自分の地位に關するものと也。思惟せしや無法にも亂暴にも日本の關係せしや而して吾國富強兵力を以て之れを討撃せしや而

して指示裝置を施したる警報器は能く其動作を完せざる由にして又軍艦用小蒸汽艇すらも三、四海里の距離に於て發見せられたるに徴すれば、今後幾多の實驗と研究を重ねるに徴すれば、遂には敵水雷艇の退却を速急左轉右回の行動として眼に視る如く容易に覺知するに現はるゝ迄に發達せしむる事各種機器の發明進歩に關する既往の順序先例に鑑み充分望を屬するを得べきを疑はず殊に同方法を利用して游航艇を距離離より指揮操縱するに至らば同艇の能力にも異常なる發達は與ふべしとて列國海軍の注意を促しつゝありと云ふ

馬車會社計畫

延日在留の竹清次郎氏及び赤山在留の大坂其外數人、留中興業、米田發三諸氏の首倡

て派出所長權藤大佐去る日彼等と會見し日人探出の確率連速を阻止せざるを嚴重に懸け合ひたるとの約束に一旦之を承諾したる末護照を交附しむるに却説境界未定の土地に於て護照の必要なきを以て之は直ちに返付したるに其後彼等等は言を左右して借撫及び中央政府の命令などによりて盡りに封禁を實行せし而已か日本金の通行さへ禁止せり猶中野に開堀を許さず今否に付いては全く別問題なりとの不法なる理由を以て照會し來れり彼等清國官吏の獨擅したる元より論するに足らずと雖も其妨礙を加減實以て抱腹に不堪而して慷慨無端なる行ひ遂に成り不申候

延日在留の竹清次郎氏及び赤山在留の大坂其外數人、留中興業、米田發三諸氏の首倡

にて大延延は間國道支線に於て資本金二萬圓の馬車運送會社を獨立し旅客貨物の運送業に従事するの計畫あり其の一號を聞くに本社を大邸至便の地に置き金道路を通じて數區に分ち其間樞要の地に出張所及び駐車場を各地便宜の地に置き適當の馬車を配置し往復及び馬車は八人附新式有蓋車を以て馬丁及び轎童各一人を附隨せしめ乗車賃は日本里程一里に計一人金十錢貨物は十貫目五錢の割合にて一夜間風雨の際は特に五

提劍走扶桑。鐵牛壓狂瀾。威何達學士。士
鄭折腰笑。故山父臥疾。老來母兄完。歸心
急於矢。別歸膝承歡。決然行行賞。陽關苦
殘殘。列鼎中酒酒。雲霞在梓。無氣塞遙
陽。舟涉面證證。倉皇就鐵路。火輪如飛九
萬。柳岸依依。離門心北。先迎守家狗。慈顏
極無限。南船不北馬。偏刷潯江漫。惹惹

向相分り兼候

文 苑

家 到 沒 名 士

文 苑

紐の
みたれ

[illegible]

●愛國婦人會の招宴

本館にては昨日午後五時半より花月に於
て官民新聞記者等を招待し饗宴とを張れり
府尹の招宴 仁川府尹は電報の如く一
午六時より仁川官民の重要なものを俱
部に招待し饗宴を備したり

仁川局年賀郵便物 仁川局年賀郵便物
一日計五千二百五十六通なりといふ

王城が官制改革の手紙に就て 王城が官制改
革は官制改革の後便宜宮内府有様殿に格
別引越し取りあひしが爾今其事務を主理院
宮中伺候者 一昨日の宮中伺候者

の王二さんだらう爵しやうが狼男りやうおつの中なへも
せず瀟堂せうたうの士女しにょに向て一今

理、李侍從院侍從、洪永寧府侍從等を重
 なるものとして男四十四人、女七人計五
 一人なり、又遷宮にありては李總理、
 相法、任内相、開臺監等を外に計百〇三
 ありしが内男七十一人、女三十二人あり
 總理事務の出現、當理事務總代理署
 京中兼次郎氏は、四總理事務局蒙るため
 京以西の各地沿道に出張を命ぜられたる
 以て其留中、新君守長阿都己吉氏代理と
 て事務を取扱ふ由

治外法權▼ 先達て帝國ホテルで東

大統領候補に必要なる銀金
 一トクに歸つた▲何がさて

へ、^二珍饈^一を押出すべく^二十重二十重に彼を圍
 んだ、^二彼は何の故にか^一菲島や露國の摩は多
 語らずして^二重に日本の事を語つた、ソレ

見るところを以てすれば

又曰く目下日本兩國政府間に横ばれる
 事に就ては日本人は傲慢にも米國に對て
 煙の文明國民同様の待遇を請求せりと▲囑
 咄五十日前のタフトは今日のタフトにあら

手である、只助らぬは彼
の顔である、べりりの功

には無かつたのである。併し眞面目に考ふれば今は國際生存競争の時代である。彼を倒さなければ自分が倒さるゝ時代である。タフは眞面目の男であるが故に彼が日本に對する敵愾と王位に對する忠誠の爲である。由來

[illegible]

數邊で出来るものと勝手に信じたのである
今更、千折の只取が分つたからとて彼に不
足は言へぬのである。

(一) 本邦にて娼妓となるべき同院遇の
(二) 餘の給は掻き捨て主義の莫連者
此の二種の外には出でないので普通か
まじの際に若干金四五圓より百四五
までを料理屋へ前借し毎日の積高(一
程)食料の半額は席料並に、賄料とし
理屋の所得とし残る半額を以て前借金
拂ふ製料なるが藝妓の衣裳も作ら
ならず紅、白粉の代、髪結賃、風呂
日々費消するものも少々ならず時に
を切つて賃喰もなし又仲居の氣持を取
急には賄賂の必要もあり月に五十圓や
圓の水揚げにては僅かに其の日の一
充つるだけに足るや足らずにて前借金
一文の内入も出來ず若しは海客其他
に就ることあれば娼妓の外に、賄料を

の者
に在り
（圖）
貴は
料を支
にば
等々
目録
六十
費に
には
病氣
仕提

●刺交交換の模様替
日本俱樂部
に開催すべき名刺交換會は申込者豫想外
多數に上りたるため席上の狭隘を感ずる
り同俱樂部の庭園に會場を特設する等な
といふ

●耶蘇降誕祭
旭町二丁目名古屋城内
マシダスト教會にては昨二十五日の夜
大なる降誕祭を執行して正面壇上には大
二箇の障色十字架を飾りし其の側に
の植木青赤の電燈を飾りししたる飾
へ其の質素の中に意匠の巧みなる裝飾
し所總說教例の如くあり次に會衆の讚
及某々氏の讚美歌合唱より續て幼女連
リヌスに就ての對語あり又木原夫人
樂ありて平和と歡樂を以て會を終り

に
の
り
の
な
松
松
な
の

泥濘の處分　雪とけ後の道路こまて二ツちも三ツちも動きが取れず本町通南門通りは特に人の通行繁多なるため下駄も履でも一寸動きのなれば始末なるに民所にては昨日夕方より警察と力を協せて海軍の取り除けに従事したるは何より甚難萬能のが今日日間早かれせば行通のもの程の便利を得たらんに最良自然に餘べき時に至リヤいゝと騒ぎ過らるといふさしかね目出度き次第といふべし

●高麗燒の崇り　常時海上郡小部神瀨にて賣店を営める熊本縣熊本郡山鹿町西戸親は福岡縣八女郡古川村の者近藤長次が去る四月廿四日京城より釜行ききた品なることを知りながら高麗燒の花魁一匹

は、大に役役泥、持ちくは、
他貴脚紳士の室内装飾品を販賣し居れる
のなるが昨今豪盛品としてシャツ、類仿察
皮類等を多数仕入れ頗る安價に販賣し
ある由にて不景氣なる泥塵にこの店は
り客は絶つて晝夜をかけて大に賑ひ居
るといふ尚ほ本日の廣告にあり

新刊雑誌

★韓京丁未政變史、全一　大阪毎日新聞社
城支局誌記者權繼柱國氏の著す所にして其の如く韓國丁未の政變を叙したるものなり名師に於てよく多結れる所あるのみ氏は當時韓國の首都たる京城に在つた通信に従事し居りたるが故に親しく目睹聞する所ありて是れに著者の一見地を得たるものなりは疑義の体は自らか偏はし惜哉著者は外部に顯はれることのみ知つて政變の因つて起りし機微を知らざざる爲めに皮悉の銀に過ぎざる點あるは

本をれ味耳て如な題京
 御進物用和洋菓子
 並ニ歲暮用 鮭密柑
 弊店儀旭橋通り聯合大賣出しに
 加盟致し御買物五拾錢毎に景景
 券一枚宛て進呈可仕候
 龍山旭橋詰
 東 京 堂
 本前日本東京
 草區茅町
 出張所京城防
 町二丁目

熊平製造金庫
 東 京
 竹內製金庫
 大坂二重瓶
 並二回轉式
 消火器
 統監府御用
 各官衙
 荷物荷造及運搬
 本
 榮
 部
 店

國販賣部
 京坂本町一丁目
 熊平商店
 丸龜六二四番
 伊藤組
 伊藤友松
 本町三丁目
 電話七百三十三番
 (電話四十四番)
 鐵城、鐵城北門内、右當分の間にて向各地に設置連綿中
 青嶋平支店

[illegible]

-466-